

情報紙

MELONとは..

緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境保全に寄与しようとする多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体でつくられた、NGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため一人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON

Miyagi Environmental Life
Out-reach Network



特別講演会

未来へのメッセージ

5月24日（木）フォレスト仙台ビル501会議室において、「未来へのメッセージ～環境先進国デンマークから～」と題し、56名の参加者を集め特別講演会が行われました。

講師のケンジ・ステファン・スズキ氏は、岩手県出身で現在はデンマークにおいて日本人向けの自然エネルギー研修施設「風のがっこう」を主宰しており、日本の風力発電機の約4分の1の輸出にも関わっています。

当日は風力発電を始めとする自然エネルギーの利用方法や環境・エネルギー政策などについてお話し頂きました。デンマークでは国が国民の生活と健康管理の責任を負っており、その安定のために、70年代から食糧とエネルギーの完全自給を目



指してきたとのこと。風力発電に関しては、現在6,400基の風力発電機がデンマークの全電力消費の約13%の電力を供給し、年間約380万トンのCO₂削減に貢献しているという日本政府にも参考にして欲しいような興味深いお話しもたくさんありました。



ケンジ・ステファン・スズキさん

当初の予想をはるかに上回る参加者に会場は熱気であふれ、好評の内に幕を閉じました。

説得力のあるお話しに、出席者からは「ぜひ、風のがっこうに行きたい。」という声や「自然エネルギーの利用については足が地についた具体的な行動を起こさなくてはいけない。」といった感想も寄せられています。

また、講演会の後では、ケンジ・ステファン・スズキ氏を囲み立食形式の昼食会が催され、なごやかな雰囲気の中、閉会時間ギリギリまで非常に活発な意見交換が交わされていました。

MELONとしても、宮城県第一号の風力発電機導入に向けて今後も積極的に情報提供の場を設けていきたいと考えています。

<Index>

●報告	未来へのメッセージ1
●特集	市民がつくる風力発電（つどい記念講演）	...2
☒案内	部会・プロジェクトメンバー募集中4
☒案内	かんきょう読み聞かせ ③③4
☒案内	大豆トラスト参加者募集5
☒案内	漁民の森 探訪（新連載）5
●報告	市民講座第2回6

●報告	市民講座第3回6
●報告	環境の日フェア7
☒案内	ストップ温暖化センターみやぎ『通信』④7
	会員状況7
☒案内	宮城県NGO/NPOイベントカレンダー8
	MELON環境クイズ8

特集

第6回MELON会員のつどい

MELONでは、6月23日(土)フォレスト仙台で、「第6回MELON会員のつどい」を開催しました。当日は第1部「維持会員総会」、第2部「緊急報告会 - COP6に向けて - 」と、2部構成のつどいとなり、会場は95名の参加者でいっぱいになりました。

記念講演は、「市民がつくる風力発電」というタイトルで、北海道の風力発電の経験を講演していただきました。



木村理事長のあいさつ

記念講演 「市民がつくる風力発電」-北海道グリーンファンドの経験-

MELONでは、2001年度の重点方針として、県内第1号の風力発電を目指ことを掲げています。その一環として「第6回MELON維持会員のつどい」では、現在北海道で風力発電の設置に取り組んでいるNPO法人北海道グリーンファンド事務局長の鈴木亨氏(株式会社北海道市民風力発電代表取締役社長)に「市民がつくる風力発電-北海道グリーンファンドの経験」と題し、風力発電に取り組んだ経緯、事業概要など貴重な情報満載の講演を頂きました。以下その要旨を報告いたします。

グリーン電力料金で基金づくり

「北海道グリーンファンド」をなぜ始めたか、からお話したい。私は、生活クラブ生協という組合員1万4千世帯の小さな生協に所属していたが、この生協で96年にグリーン電力料金の検討を始め、98年4月に制度としての検討を方針化した。その仕組みは、NPOの北海道グリーンファンドを設立し、会員は毎月電気料金を5%プラスして払う。この5%をファンドとしてプールするというもの。北海道グリーンファンドは、99年7月に設立総会を行い、同年12月から20人の会員を対象に、運用を開始した。支払い方法などはこれまでの口座振替による支払い方法と全く同じで、北海道電力から送られてきた個別

の料金データを基に、北海道グリーンファンドが電力会社に代わって口座から引き落とし、それを電力会社に支払っている。

会員の節電平均は6.6%

この事業を始めた背景は、生協が扱っていた食料と、エネルギーが密接不可分の関係にあること、また北海道にも原発があり、これをめぐってさまざまな議論が交わされていたこと、さらに規制緩和の中で、電力事業に電力会社以外でも参入できるようになり、市民として何かできるのではないかと考えたことなどがある。現在会員は1,150人。基本的には5%上乘せする分、節電しようということで進めている。調査の結果、会員の節電は6.6%になっている。

節電は私も苦手だったが、その私ができるならば皆にもできるだろうということで、やってみたら9%削減できた。実際にしてみたことはごく普通のこと、使っていない電気は消す、手元スイッチを活用する、という程度。さらに小学校3年生の娘に、「5%以上減った分はお小遣いとしてあげる」といったら、これがけっこう効いて、娘がこまめにスイッチを切るようになった。



鈴木 亨さん

市民出資による日本初の風力発電

市民風力発電所を始めた目的は、地球温暖化も原発もない未来を選択する市民の具体的実践として、本当に小さい力ではあるが、自らのエネルギー未来を切り開くという点にある。本来はNPOとして取り組みたかったが、NPOでは出資を募れないし、利益を出さないNPOには銀行もお金を貸さない。そこで株式会社北海道市民風力発電を設立し、市民出資による日本で最初の風力発電所を建設することにした。

建設にあたっては、市民による出資で資本金をつくり、不足分を金融機関からの融資で賄うことにした。資本金は2,500万円で、他に「匿名組合出資」(注)として1口50万円で合計1億

2,500万円が集まった。建設予定地は北海道宗谷管内浜頓別町。風力発電機は3枚翼の誘導発電機で、出力1,000kW、風車のタワー高は60m、羽の直径は54m。事業費は約2億円、年間277万kWを供給する予定である。これは900世帯分の電力にあたる。電力の買い取り単価は11円95銭/kwh。事業スケジュールは、今年5月に着工し、9月から運用の売電収入は、17年間の平均で年間3,300万円で、17年間の合計では5億4,000万円を見込んでいる。このうち返済充当可能金額は2億9,700万円。元利返済後現金は2億2,300万円で、仮に100万円出資した人は140万円になる計算。

しかし、お金目当ての会員はおらず、皆元金が戻ればいいぐらいに思っているようだ。ちなみに事業契約は17年間で、その後どうなるかは今のところ全く分からない。

「市民風力発電所・1号機」は、理念型市民投資市場を創る実験の場でもあり、従って多くの人に参加してもらうことが大切だ。しかし、北海道電力は私達を最後に今後1年間は電力をよそから買わないといている。さらに、私達の場合は単価が11円台で契約できたが、競争入札では7~8円台になっている。生態系に与える影響も考える必要があり、土台がないと風力発電も難しい。

宮城県は、青森や北海道に比べると、風力発電に必要な風は少ないかもしれないが、決してやれないことではない。私達も試行錯誤しながら進めており、様々な失敗も参考になると思う。是非いろいろなところに風力発電をつくってもらい、お互いの交流ができればいいと思っている。



質問を受ける鈴木さん

(講師略歴) 1957年北海道生まれ、88年から生活クラブ生協・北海道に勤務。99年7月「特定非営利活動法人 北海道グリーンファンド」設立。2001年「株式会社北海道市民風力発電」設立。

(注) 匿名組合出資は、会社ではなく事業に出資する。当該プロジェクト終了までの期間限定で、議決権はないが、監視権がある。利益配当のプライオリティは「優先」となり、株式出資は「劣後」に回る。「出資金変換請求権」、「利益配当請求権」などの権利が担保される。

部 会
プロジェクト

メンバーを募集中

MELONでは各部会・プロジェクトのメンバーを募集中です。MELONでは様々な活動を部会・プロジェクトごとに行っていますが、会員のみなさんの活動の場として、各部会・プロジェクトではメンバーを募集しています。詳細は事務局までお問い合わせください。

水部会・・・迫川・白石川のマップ作りや「阿武隈川サミット」の開催に取り組みます。
 緑・食部会・・・「第3回宮城食料サミット」の開催、「大豆畑トラスト運動」に取り組みます。
 第8回環境市民講座を韓国で開催します。
 おさがり市実行委員会・・・10月21日に恒例のおさがり市を行います。
 セミナー企画プロジェクト・・・環境市民講座を開催し、2月には「環境コンサート」を開催します。

企業&環境プロジェクト・・・2月に「企業環境セミナー」を開催します。
 容器包装塩ビ運動プロジェクト・・・「塩ビ問題学習会」の開催、「業務用容器包装の塩ビ使用実態アンケート」を実施します。



水部会主催の七北田川流域観察会



私たちはときどき道ばたの木が、道路の拡張で切られていくのを目にします。農家の周りに生い茂っていた木々や竹藪も次々と姿を消していきます。この木々がどれだけの時間をかけて人間をまもる姿に成長してきたかを考えてみましょう。

私たちはせいぜい90年ほどの人生、そして木々を倒して、新しい町を作ろうと考えるのはほんの20年ぐらいのものではないでしょうか。私たちの生活の外側には、私たちが身を委ねている「時間」とは別の「時間」の流れがあると考えてもいいでしょう。私たちを和ませてくれる木々は、まさにその時間流れの中にあります。私たちが木造のすばらしい空間をデザインした建物に入ると「なんかゆったりするね」などと感じます。森や林の中で、もっとほっとするのは、もしかしたらこの「時間」のせいではないでしょうか。

「長い長い時間の流れ」

バングラディシュのナイマ・ハク作の「地球が緑になったわけ」(本山央子訳、1996年、蝸牛社)では土と氷と火を地球の三つの主人公とし、もっともっと長い「時間」の流れで地球が語られます。命をはぐくむ土と氷が仲良くくらしていたところ、火がこれをねたみ、土を惹きつけ、氷は去ってしまいます。そして、地球の緑は失われてしまいます。

私たちは、いろいろなところで、「時間」を楽しむことを見つけなければなりません。本を読むことは、テレビやビデオとは違った時間の流れを感じることなのだと思います。読みましょうか。



参加者募集

大豆畑トラスト参加者募集



緑・食部会は遺伝子組換えの心配のない安全な大豆を作って食べようと、生産者と提携して去年から

大豆畑トラスト運動に取り組んできました。種まき、草取り、収穫、みそづくり体験を通して見えてきたこと 県産の大豆はおいしい、それなのにどうして売れないの？ということでした。おいしくて安全な大豆がちょっと価格が高いために売れ残っているのです。小さな力でも集れば大きな力になります。あなたも大豆を通して食と農を考え直してみませんか？

草取り、みそづくりなど年間2回ぐらいの農作業体験があります。

参加経費は2,000円（ただし収穫した大豆を買い取る経費やみそ加工にかかる経費などは別途負担となります。）

定員:30名

申込み:7月20日（金）までMELON事務局宛お申し込み下さい。（電話番号等は8ページ参照）

漁民の森探訪

川がつかないだ縁

櫻井 常矢

牡蠣の森を慕う会（代表 畠山重篤さん）がはじめた「森は海の恋人」運動を中心に、周辺地域へのこの運動の広まりをたどる。全5回シリーズの1回目は、畠山さんへのインタビューをもとにおくる

それは、1989年9月岩手県室根山8合目に広葉樹の苗30本を植えたことにはじまる。木を植えたのは、宮城県気仙沼湾で牡蠣養殖業を営む漁民たちである。彼らは、漁場の生態系が危機にあることやそれらが河川水系によって育まれていることを感じていた。湾に注ぐ大川の流れは、その西に位置する岩手県室根村へと続く。大川は



畠山重篤さん

川幅こそ大きなものではないが、河口からたどるといくつかの支流に分かれながら近隣の田畑に恵みを与えている。上流に住む者の生活、農業や森林の姿が大川の自然環境、湾の生態系に結びつくことが理解される。しかし漁民と

室根村との関係は、こうした地理的な関係だけではない。

室根村では、4年に1度室根神社大祭が催される。大祭は、1260余年前に紀州熊野にある熊野神社から御神霊を勧請して以来続く、奥州三大荒祭のひとつ。

ここに漁民たちは、御塩献納役（神役）に世襲でかかわってきた。大祭の日の未明、室根山の見える湾の沖まで船を出し、竹筒に汲んだ海水（塩）で御神体を清める役である。漁民にとっての室根山はまた、海上での位置を知る海の目印=山測（やまばかり）でもある。生活や産業、文化的・歴史的な関係が両者を結んでいたのである。漁民たちが真っ先に牡蠣の森として室根山を思い描いたのは、極々自然のことだったのかもしれない。



インタビューする著者

報告

健康住宅を考える



MELON環境市民講座第2回が5月12日、フォレスト仙台ビル501会議室で開催されました。テーマは「健康住宅を考える」。38人の参加者と一緒にシックハウス・化学物質過敏症にならないような健康住宅について考えました。

講師の星ひとみさんは省エネ住宅の高気密・高断熱は換気の減少につながることを指摘し、本当にこれが省エネといえるのか、本当の省エネとはどうい



うものかをOHPを使用しながら説明しました。

また、窓を開けて外気を取り入れることの大切さ、私たちの認識を改めなければならないことなどを喚起して2時間の講座を終えました。

私たちにとっても身近な、「人に触れる第三の皮膚」ともいわれる住宅に関する問題ということもあり、大変好評の講座となりました。



講師の星さん

報告

親子大豆クッキング



MELON緑・食部会は6月9日、仙台市泉区のみやぎ生協文化会館(WITH)で、親子で作る大豆クッキング教室を開きました。男性も含め親子連れなど25人が参加、県産大豆を使ったランチメニューに取り組みました。

この日のメニューは、大豆のドリア 簡単ポークビーンズ 大豆のイタリアンサラダ 豆腐団子のくずもち風 の4品。仙台市在宅栄養士の会の片岡芳子さんが工夫したアイデア料理で、簡単でボリュームがありしかも揚げ物を避けるなど、子供にも危なくないよう配慮してあります。



中央が講師の片岡さん

1時間でできるふっくら大豆の戻し方や、だまにならないホワイトソースの作り方など片岡さんの秘伝技の紹介もあり、参加者には楽しい料理教室になりました。

参加者は「一晩漬けおきして豆を戻すのが面倒で水煮缶を使っていたけれど、1時間で戻せるならもっと気軽に大豆を使える」「ドリアに大豆の取り合わせが新鮮」などと話し、大豆が工夫次第で和洋いずれにも応用の効く素材であることを再認識していました。

同部会は田尻町の農家と提携して、去年から大豆畑トラスト運動に取り組んでおり、3月には手作りみそにも挑戦しました。運動を通して県産大豆の生産が増えているにもかかわらず、価格の問題などで消費が思うように伸びていないことがわかり、少しでも大豆の消費に役立てばと料理教室を企画しました。

片岡さんも「今日大豆は私がこれまで使った大豆の中でも最高級品。子供たちの体のためにも、おいしい大豆を作り続けてほしい」と生産者にエールを送っていました。

報告

環境の日フェア

6月3日(日)仙台市泉区役所前で「環境の日フェア」が行われました。このフェアは、MELONが昨年に引き続き宮城県より業務委託を受けているもので、全体の企画・運営を行っています。

今回の環境の日フェアでは、8つのテントブースに16の企業/団体から出展いただき、約750名の来場者を迎え大いに盛り上がりを見せました。内容としては、環境家計簿ソフトなどを使ったパソコン体験コーナーやピオトープに関する展示などに加え、今年は特に自然エネルギーに関する出展をメインに企画しました。ここでは、太陽光パネルを使った噴水や国内製の風力発電の展示などがあり、来場者の注目を集めました。

また、ペットボトルや牛乳パックを使った工作コーナー、市民の手づくりによる環境紙芝居などでは、熱心に聞き入る子供たちの姿が多く見られました。そして、これらの出展を影で支えてくれたのが多くのボランティアの皆さんでした。日頃からMELONの活動に参加いただいているボランティアとのネッ



トワークが大きな力を発揮したように思います。

MELONでは、今回の環境の日フェアを通じて新たにできた企業/団体、市民とのネットワークを今後のMELONの活動でも積極的に活かしていきたいと考えています。ご協力いただいた皆さん本当にありがとうございました。(理事 櫻井 常矢)

報告

ストップ温暖化センターみやぎ「通信」④

5月17日(木)に18:00より、フォレスト仙台ビル501会議室で2001年度第1回運営委員会が開かれました。

「市民がつくる環境白書2001」発行をはじめ、COP6再開会合に向けた世論づくり活動など、2001年度のストップ温暖化センターみやぎ活動計画を実行に移すことが話し合われました。本年度は環境と健康をテーマに、シックハウスと省エネについても取り組んでいきます。

また、昨年に引き続き今年も、宮城県からの委託事業として「ふるさと環境学習支援業務」に取り組みます。本年はMELON事務局が業務主体となり、ストップ温暖化センターみやぎは、下記の業務を担当します。

- ・環境家計簿CD-ROM(H11年度版)改訂のための企画・立案。
- ・環境家計簿CD-ROM子供版(環境教育用ソフト)の開発。

ストップ温暖化センターみやぎ運営委員会はこれまで不定期に行われてきましたが、各プロジェクトの進行状況などの情報を共有するために定例化が決

まりました。次回から奇数月の第1木曜日18:00~20:00に、フォレスト仙台ビルで定期的に行います。第1回の運営委員会では、昨年度の反省をいかし運営委員は各プロジェクトを担当して運営していく提案が出されました。

現在ストップ温暖化センターみやぎは運営委員の増員を予定しております。また、2001年度第2回運営委員会は7月5日です。ご意見などございましたら、どうぞお気軽にストップ温暖化センターみやぎまでお寄せ下さい。

会員状況



合計	1,068
法人	135
任意団体	16
個人	917
(2001年5月31日現在)	

ご案内

イベントカレンダー

詳細は各団体にお問い合わせ下さい。

蒲生を守る会	7月か8月 蒲生海岸自然観察会 蒲生海岸 980-0874 仙台市青葉区角五郎 2-4-6 022-223-5025(木村)
日本野鳥の会宮城県支部	http://homepage1.nifty.com/magpie/wbsj-miyagi/index.html 980-8691 仙台中央郵便局私書箱第127号
日本自然保護協会 宮城県自然観察指導員連絡会	7/22(日) 「泉ヶ岳・新しい発見」観察会 984-0812 仙台市若林区五十人町 85 (T/F)022-223-6334(小野)
桜会	7/15(日)、8/12(日) フリーマーケット 10:00~14:00 泉区役所前広場 9/23(日) フリーマーケット 10:00~14:00 西公園 982-0842 仙台市太白区越路 2-10 022-223-0569(佐藤)
サイカチ・ネイチャー・クラブ	7/14、15 南蔵王・ナイトウォーキングか(会員のみのみ) 8/11 「センス・オブ・ワンダー」上映会 9/16 観察会 9/30 「ピオトープ管理士試験」会場支援活動 980-0822 仙台市青葉区立町 12-1 ア・I・シー・パノ内 (T/F)022-262-2731 mon@technowave.ne.jp
通町地区自然を守る会	7月下旬 みどりの少年団県大会 松島野外センター 981-0916 仙台市青葉区青葉町 16-9 022-233-0805(佐藤)
キブシの会	毎月第3土曜 植物散策(周辺の山を2~3時間で) 13:00~ 八木山・金剛沢 984-0835 仙台市若林区今泉 1-12-15 022-289-5608(渡辺)
東部地区梅田河川環境浄化推進協議会	7月下旬 東部梅田川水辺フェスティバル 苦竹一丁目地内河畔 9月下旬 移動研修会 983-8601 仙台市宮城野区五輪2-12-35 宮城野区保健福祉センター衛生課内 022-291-2111内線6726
仙台山想会	毎月第2、第4金曜日 集会 パルシティ仙台5F会議室等 月2~3回の山行 982-0848 仙台市太白区萩ヶ丘11-13 022-264-3848(村上)
水魚方式研究会	6月~9月 梅田川流域の水循環機構解明調査 随時 環境紙芝居、カルタ等環境教材の製作 981-0952 仙台市青葉区中山2-39-13 (T/F)022-279-9104(西林)
デボネット宮城	月1回程度の例会 983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-11-5 A-105 ACT53仙台気付 (FAXのみ)022-295-2910(木下)
青葉山の緑を守る会	9/9(日) 2時間ほど市有林「青葉の森」散策 980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉342-11 (T/F)022-229-4196(植村)
ツキノワグマと棲処の森を守る会	9月中旬 クマを語る集い 盛岡市 982-8691 仙台南郵便局私書箱36号 (T/F)022-295-1320(板垣)
泉ローターアクトクラブ	7月下旬 泉ヶ岳水神清掃 9月上旬 七北田公園の清掃 981-3117 仙台市泉区市名坂字町69 七北田幼稚園内 022-372-3327(平野)
水環境ネット東北	7/26(木) Eポート子ども交流会in七ヶ宿 七ヶ宿自然休養公園 8/27(月) 「センス・オブ・ワンダー」上映会 せんだいメディアテーク7Fシアター 980-0811 仙台市青葉区一番町1-15-19 菅野トクビル202号 Tel022-217-2327 Fax022-217-2328(富永)

MELON 環境クイズ

Q.デンマークでは全電力消費の13%を風力発電で賄っていますが、そのことがCO₂の排出量削減に大きく貢献しています。

では、削減されたCO₂排出量は年間でどれくらいでしょうか。(ヒントは情報紙の中にあります。)

- A.約260万トン
- B.約320万トン
- C.約380万トン

正解者の中から抽選で5名の方にMELON協力商品券(¥1,000)を進呈します。

応募要綱 メールかはがきでMELON情報センターまで

記載内容 答とMELON(または情報紙)についてのご意見・ご要望をお書きください。

締切り 7月31日(消印有効・メールは到着分)
5月号の正解者は依田清枝さんと上條栄治さんのお2人でした。

ご応募ありがとうございました。お2人にはMELON協力商品券(¥1,000)をお送りしました。

発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

事務局 Tel 022-276-5118 Fax 022-276-5160

情報センター Tel 022-301-9146 Fax 022-219-5710

ストップ温暖化センターみやぎ Tel 022-301-9145 Fax 022-219-5710

ホームページ <http://www.comminet.or.jp/people/melon/> E-mail melon@cir.tohoku.ac.jp